醒井

伝説と歴史の舞台を歩く

米原市 DATA
- 歩行距離▼約2km
- 歩行時間▼約40分

加茂神社の境内脇の石垣の下からこんこんと湧き出る"居醒の清水"。右の円内は湧水池に立つヤマトタケルの像。

ヤマトタケルが病を癒やした居醒の清水

米原市醒井の旧中山道に沿って流れる地蔵川では、これから夏にかけて梅花藻の最盛期を迎える。この水草は清流にしか花を咲かせないといわれ、地蔵川の上流には水源となる"居醒の清水"がある。ここに凛々しいヤマトタケルの像が立っている。

"居醒の清水"には、古事記や日本書紀にも記されたヤマトタケルの伝説が残っている。ヤマトタケルは、景行天皇の命で伊吹山の荒ぶる神を退治するために山へ向かうが、そこで白猪（日本書紀では大蛇）に遭遇する。山の神の使いだと思い無視するが、実は白猪は山の神自身の化身。山の神は大氷雨を降らせ、ヤマトタケルは熱病で倒れてしまう。朦朧となりながら下山し、居醒の清水で体を冷やすと、次第に正気を取り戻すことができた。その後、再び旅立つことができたという。

加茂神社にある"居醒の清水"の湧水池には、ヤマトタケルが休んだとされる腰掛石や、馬の鞍を掛けたという鞍掛石もある。

JR醒ヶ井駅から加茂神社までは宿場町の風情が残る静かな街道筋だ。中山道沿いには十王水、西行水と呼ばれる湧水もある。これを含めて醒井の周辺には七つの湧水があり、これらをめぐるウォーキングルート（醒井湧くわく街道）も設定されている。少し足をのばして散策してみるのもいいだろう。

環境省の「平成の名水百選」に選ばれた"居醒の清水"は、地蔵川となって地域の暮らしを潤すだけでなく、希少生物の生息地にもなっている。有名な梅花藻だけでなく、絶滅危惧種の淡水魚ハリヨの保護区でもある。ハリヨは醒井宿問屋場にある水槽で観察できる。

地蔵川の梅花藻
（米原観光協会提供）

バックナンバーをKEIBUNホームページ
「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！
http://www.keibun.co.jp

"Walk on"とは
「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな"近江"という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。